



揖斐郡中学校長会長 大野町立揖東中学校長 木下 隆一

「授業改革」

若かりし頃、勤務校の校長先生に「公教育の役割とは何か？」を問われたことがあった。20年以上前のことである。当時学年主任を務めていた自分には、自らの足元を問いたさうなその問いにまともに答えられなかった。目の前にいる子供に対峙することが精一杯で、「誰のために～」はわかっている。「何のために～」は正直考えることすらしていなかった。

今は、公教育の役割を自分なりに明確にしている。「誰一人取り残さずに学びの権利を保障すること」「民主主義社会の一員を育成すること」この2つ。「学びの権利」は自分流に解釈すると「児童生徒は皆伸びたがっている。力を付けたがっている。これをその子なりに保障すること。」となる。

中学校においては、休日の部活動が地域クラブ化された。その際、そのプラットフォームごと民間のスポーツクラブが引き受けたという地区があるそうである。(揖斐郡内3町は各自治体がプラットフォームを担っている。)学校の働き方改革が進んだことは事実であるが、民間のスポーツクラブが運営となれば、競技志向が強まることは十分に想像できる。公教育自体も、度重なる教員の不祥事やいじめ問題、不登校の増加により、やがては民間の企業にプラットフォームごと運営される時代が来るかもしれない。そうなれば、学習塾のようになり、知徳体の一体的な育成を「学級」というユニットで協働的に行う「令和の日本型教育」も失われていくかもしれない。学びたい子だけが学び、それほどでもない子は取り残されていくことになるかもしれない。私たちが公教育で大切にしなければならないのは、文科省も謳う通り「誰一人取り残さない」「誰一人置いていかない」「誰一人あきらめない」という信念なのだと気付かされる。

翻って、自分の勤務校はどうか。「聞いている子だけが学び、聞いている子だけが力を付ける」という一斉授業から何としても脱却する必要がある。一斉授業は、生徒の主体的な学びを阻害し、授業からの「隠れ逃避者」「学びの偽装者」を生み出してしまう。

西濃では現在、誰一人取り残さずに学びの権利を保障するため、また、主体的・対話的で深い学びを実現するため、自治体ぐるみ、学校ぐるみで小集団による学び合いに取り組んでいるところが見られる。「対話」による学び合いは、その形態による「学び方」を研究授業だけ、特定の教科だけでやっていると深まりが得られず、全教科で日常的に取り組むことが大切であると認識している。学び合いができる人間関係構築の力を鍛えることで、その営みが授業改革、やがて学校改革につながっていく。本校もその方向に歩み始めてやがて3年が経つ。しかしながら、小集団による学び合いは、話し合うに足る練られた課題、本質的な問いが用意されていること、話し合いをコーディネートできる教師の出場が必要であること、他者との協働の結果、変容や深化を生徒自身が感じられるようにすることなどが重要で、つまるところ教科の本質にかかわる深い見識が必要となってくる。「主体的」「対話的」を促す学習集団づくり、「深い学び」を生み出す、教科の本質にかかわる問い…返す返すも、学校ぐるみで全教科、日常的に取り組んでいかなければならない。

生徒を学習の主体者にするためには、我々公教育の教師も、授業づくり、学校づくりの当事者となって、新しい時代の「学び」に向かわなければならない。揖斐郡の教師が互いに力を合わせて授業改革に取り組む。また楽しからずや、の心境だ。働き方改革で生み出した余白を全てつぎ込んでも惜しくない、やりがいのある仕事だ。

令和8年度センター運営方針（後期 9月～3月）

キーワード

- 揖斐郡の教職員・児童生徒・教育関係者から必要とされる郡センターの運営と事業（郡小中学校長会・関係諸機関と連携を強化した郡教育会事業の推進）
- 「揖斐郡はひとつ（ねらいが明確な事業）」→揖斐郡の児童・生徒の成長と充実感
- 「教職員にとって多様で有効な研修の場」「郡内の教職員が必要とする教育情報」の提供→揖斐郡教職員の資質及び指導力の向上
- 郡センター発信の「ICTの活用」による揖斐郡教育の充実や教職員のスリム化への貢献と郡教育会事業・郡センター事業の成果を維持したスリム化

令和8年度後期 揖斐郡教育研修センター運営方針と願い

1. 「開かれた研修センター」として、「教職員にとって多様で有効な研修の場」を設けるとともに、「郡内の教職員が必要とする教育情報」を提供する。また揖斐郡小中学校校長会や各町の教育委員会と連携を強化し、教育会事業の成果を高めながらスリム化を図る。
郡教育研修総会・郡教育研究実践論文・郡教育研究員事業
2. 一人一人の児童生徒の個性の伸長や自己肯定感がもつことをめざした児童・生徒文化事業を工夫して行うとともに、優れた取組や成果を郡内の各学校が共有できるようにする。
郡科学作品展・郡社会科課題追究作品展・郡図工美術展・郡ふれあい作品展
3. ほほえみ教室を核にして、郡小中学校長会や各校の教育相談カウンセラーと連携し、健康安全や教育相談活動等の充実を図り、気軽に利用できる学校教育・社会教育の窓口となるよう努める。
ほほえみ教室と学校とのパイプの強化 ほほえみ教室での指導を契機として学校生活へ
4. TEAMSによるオンライン会議やグーグルフォーム、郡センターHPを郡内の教育活動の充実や郡内教職員の事務のスリム化につなげたり、令和7年度に各校に配付した「揖斐郡生成AI活用ブック」に令和8年度の夏季研修中級編の内容を加え、揖斐郡におけるICT活用推進の中心的な存在としての機能を高める
生成AI夏季研修+揖斐郡生成AI活用ブック（2）、TEAMS会議の質の向上（ブレイクアウトルーム等）、センターHP・郡学保HPの充実、郡教育会掲示板の更なる活用

今までの成果の上に立ったICT活用の5本柱による更なる教育の質向上と効率化

ICTを活用したスリム化や教育事業の改善（目に見える形でのエビデンスの強化）

- ① 生成AIの教育への有効な活用
令和8年度の夏季研修では学校での授業の質の向上や校務のスリム化についての生成AI活用研修・中級編を行った。その内容を加えた「新編 揖斐郡生成AI活用ブック（2）」をもとに、郡内の各校の生成AIの有効活用を図っていく。
- ② 郡センターホームページの効果的な活用
郡教育会で行った研修の資料や動画・授業ライブラリー・実践論文ライブラリー等による揖斐郡の教職員の資質や授業力の向上、デジタル版の読書感想文集やデジタル版「いびの教育」等による揖斐郡の児童生徒や教職員の優れた作品や実践の紹介を進め、活用が増えてきた。令和8年度後期は揖斐郡で行われた優れた実践を積極的に紹介し、揖斐郡の教育の向上のための有効なアイテムとなるようホームページへの掲載内容を有意義で魅力あるものにしていく。
- ③ 掲示板の効率的な活用
掲示板により揖斐郡内の教職員が学校を超えた交流ができるようにとの願いで令和6年度に設置した郡教育会掲示板は令和7年度を経て、令和8年度は郡教科研での連絡や教研支部の取組の周知等で主体的に活用する教職員が増えてきている。郡内の教職員が掲示板を通して積極的に実践を交流したり、掲示板から必要な情報を手に入れ、自己の実践に生かしていけるようにする。そうした郡センターを経由しない学校間、教職員間の情報交換を更に押し進めていく。
- ④ TEAMSによるオンライン会議・研修
揖斐郡教育研修センターではTEAMSを活用したオンライン会議を、郡教育研究員会、揖斐郡教育会研修総会、実践論文研修会、夏季研修等、様々な場面で行ってきた。令和8年度後期はブレイクアウトルームの活用の仕方を郡内に周知するとともに、実際の会議でブレイクアウトルームの活用を図っていく場を設けていく。
- ⑤ グーグルフォームの活用
令和8年度はグーグルフォームを活用し、夏季研修アンケート、郡教育研修総会アンケート、郡学校保健研修総会アンケートや講演内容についての意見や希望を聞くアンケート、夏季研修アンケート、郡三師会と養護教諭との交流会アンケート、教育研究員アンケートなどでより多様な活用法を工夫した。後期も事務処理の効率化、情報入手の側面からフォームの活用を進める。

令和8年度揖斐郡科学作品展・社会科課題追究作品展

9月5日(土)・9月6日(日)に令和8年度の「揖斐郡科学作品展」・「揖斐郡社会科課題追究作品展」を大野町民センター多目的ホールで実施しました。作品展には夏休みの間に児童・生徒のみなさんが熱心に取り組んだ素晴らしい作品が各校から出品され、多くの方に参観していただきました。

講評の中には「興味をもった事物や事象に対してどうしてこうなるのかという前向きな取組ができていて、その上で仮説を立てていろいろな方法で検証したり、じっくり観察して自分で発見する姿が見られました。」というご意見もあり、郡科学・社会科作品展が揖斐郡の児童生徒の成長につながっていることを感じました。

令和8年度 揖斐郡科学&社会科課題追究作品展入場者数

総参観者数	555	人
第1日：9月5日(土)	324	人
第2日：9月6日(日)	231	人



令和8年度 取組数

取り組み状況	郡での 総取り組み数	郡作品展 出品数	入賞数			
			金賞	銀賞	入選	県作品展 出品候補
科学作品展	295点	66点	8点	13点	9点	4点
社会科課題追究作品展	154点	39点	9点	8点	12点	9点

令和8年度 郡科学作品展の金賞受賞作品

研究の部			
作品名	学校名	学年	氏名
あさがおのひみつだいはっけん！！	八幡小学校	1	鈴木 明莉 さん
けんきゅう はずむしゃぼん玉をつくり、しゃぼん玉のひみつをみつけよう	八幡小学校	2	田中 紬 さん
われない？水の中で？カラフル？その「シャボン玉」やります！わたしの知らないシャボン玉の世界	温知小学校	3	高木 梨帆 さん
たべかけパンをおいしく保ぞんするには	池田小学校	4	伊藤 ももなさん
ぬか漬けのひみつを探せ！～とれすぎ野菜をおいしく変身～	北小学校	5	見屋井 花 さん
体感だけじゃなく、数値化して証明しよう!! どうしたら登校が楽になるの!? Part 2!!	温知小学校	6	森 絃 さん
科学工作の部			
令和に復活 名鉄 モ 755号	北小学校	4	桑原 蒼士 さん
標本・採集の部			
根尾川の石の旅～川の中流から下流へ石はどう動くのか～	東小学校	6	小里 葉月 さん

令和8年度 社会科課題追究作品展の金賞受賞作品

作品名	学校名	学年	氏名
あんぜん かくにん よーし！わたしの つうがくろってどんなみち？	温知小学校	1	高木 彩良 さん
いび川町のじまん わたしのじまん ～やくそう～	北方小学校	2	高橋 芽生子さん
悠希のクリーンカンバック大作戦	宮地小学校	3	安田 悠希 さん
関ヶ原の戦いをさぐれ！～パート2～	小島小学校	4	小椋 健史 さん
砂防えんていのひみつを探ろう！	小島小学校	4	小椋 康史 さん
わたしのまち 揖斐川町かるた	大和小学校	5	細野 瑛菜 さん
"大野町と京都市は似ている？！わたしのオリジナル地図づくり～近所の看板から始まる京都の旅～"	西小学校	5	服部 杏彩 さん
乙原は、どうして『尾張藩』だったの？	北方小学校	6	高橋 穂香 さん
もし、明日、地震が起きたら～熊本地震から学ぶ、僕の防災～	池田小学校	6	山田 怜歩 さん

令和 8 年度揖斐郡読書感想文コンクール

令和 8 年度の揖斐郡読書感想文コンクールでは総取組点数が小学校 3 4 8 点、中学校 7 2 4 点の合計 1, 0 7 2 点で、そのうち、郡の読書感想文コンクールには小学校 7 8 点、中学校 5 7 点の応募がありました。特選に選ばれた作品は郡の読書感想文集に掲載するとともに、郡教育研修センターのホームページに「デジタル版読書感想文集」としてアップします。

揖斐郡読書感想文コンクール応募・入賞状況

	総取組数	郡への出品数	特選	入選	佳作
小学校 自由図書の部	2 4 3	4 0	5	9	2 6
小学校 課題図書の部	1 0 5	3 8	1	1 2	2 5
小学校合計	3 4 8	7 8	6	2 1	5 1
中学校 自由図書の部	6 8 6	4 5	0	8	3 7
中学校 課題図書の部	3 8	1 2	2	2	8
中学校合計	7 2 4	5 7	2	1 0	4 5
郡全体	1 0 7 2	1 3 5	8	3 1	9 6

令和 8 年度揖斐郡読書感想文コンクール特選受賞者

部門	感想文のタイトル	学校名	学年	氏名
自由	ごめんね、だいすき	小島小	1	橋本 怜奈 さん
自由	じゅえきってすごい	北方小	2	折戸 珀心 さん
課題	あきらめない工作とお米	揖斐小	3	林 尚希 さん
自由	クマ「に」森を返すとは？	西小	4	丹羽 悠晴 さん
自由	死ぬことと生きること	南小	5	三間 匠馬 さん
自由	たった一つの大切な命	小島小	6	窪田 光我 さん
課題	なにもかも自分優先って正しいの？	揖斐川中	1	細野 珠可 さん
課題	いつか大きな炎となる日	北和中	2	今西 康瑛 さん

令和 8 年度児童文化事業の講評

令和 8 年度の児童文化事業（科学作品展・社会科課題追究作品展・読書感想文コンクール）では郡の役員の先生、学校担当の先生方にお世話になりました。各作品展でいただいた講評を掲載しますので次年度の指導の参考にしてください。



科学作品展	- 金賞作品では自分の好きなものについてより詳しく知りたい、もっとよいものを作りたいという思いで一つずつ条件を変えながら、子どもらしい追究ができていました。 - 身近な事物・事象に関心をもち、明確なテーマを設定して表やデータで分かりやすくまとめたり、予想から考察までの流れを意識して研究が進められていました。 - 科学工作や採集の部では、どうしてその工作を作ろうと思ったのかが明確になっていたり、自分で足を運ぶからこそ気づく素晴らしい作品が見られました。 - 学年によって作品数に差があり、少しでも良い作品になるように各学校からの声かけやまとめ方の紹介をしていく必要があると感じました。また中学校は小学校に比べてかなり作品数が少ないので小学校で今挑戦してくれている人は中学校になっても継続してほしいと思います。
社会科課題追究作品展	- インターネットや本で調べた内容から実際に調査に行ったり、インタビューするなど本人しかできない研究になっていてよかったです。また家族の方からの手厚いサポートも感じられ、作品作りを通して家族の絆も深まったのではないかと思います。 - 全体的に質が高い作品が多く、研究としての価値が整っているか、自分にしかできない追究過程や結果であるかを大切に審査を行いました。 - 課題追究の仕方をさらに工夫したり、「よりよい社会の実現のために自分がどう関わっていくか」という点を大切にさらに踏み込んだ追究がされることを期待しています。
読書感想文コンクール	- 本の内容と自分の生活を結び付けたり、家族やきょうだいなどの身近な人とのかわりつなげて考えられ、本に親しむ機会を家族ぐるみで作っているのが感じられました。 - 本を読むことをきっかけにして今まで気づいていなかった実体験や心の中にある思いや感動や願いを掘り起こして読書感想文で表現した作品があり、素晴らしかったです。 - 生成 AI では書けないような自分だけの感動や、周りの人に教えてもらったことを大切に自分らしい感想文が多かったと思います。 - 敬体と常体の混在や誤字脱字、原稿用紙の使い方の見直しを各校で行ってから提出することが必要です。書き出しの工夫や題名にも自分の思いが込められるとよいと思いました。

令和8年度 夏季研修 (生成 AI 活用研修(中級))

郡教育研修センターでは7月28日(火)に生成 AI 活用研修・中級編を実施し、「AI リテラシーを意識した生成 AI の効果的な授業活用～生成 AI 時代の問いを育てる力」のテーマで、岐阜聖徳学園大学 DX 推進センター長 芳賀 高洋先生に生成 AI の授業や校務での活用について学び合いました。

また夏季研修の内容をもとに「新編生成 AI 活用ブック(2)」を作成し、各校・各町教委に配付するとともに、郡教育研修センターHPにアップしました。

揖斐郡教育研修センターでは、夏季研修の他にも、郡教育研究実践論文、郡教育研究員事業、郡教育会研修総会等の研修事業を実施し、揖斐郡の教職員が指導力や資質を高め、揖斐郡の児童生徒の成長や笑顔、保護者や地域の皆様の信頼につながるよう取り組んでいます。



「新編揖斐郡生成 AI 活用ブック(2)」の内容

- (1) 令和8年度揖斐郡教育会夏季研修 生成 AI 活用研修・中級編 講演
AI リテラシーを意識した生成 AI の効果的な授業活用～生成 AI 時代の「問いを育てる力」～
岐阜聖徳学園大学 教育学部教授 DX 推進センター長 芳賀 高洋 先生
 - ①生成 AI はどのようにして私たち人間と会話(応答)しているのか
 - ②AI リテラシーを意識した生成 AI の効果的な授業活用
 - ③AI リテラシーを支える3つの柱
 - ④生成 AI リテラシーを育てる4つの柱
 - ⑤生成 AI リテラシーを育てる4つの授業アイディア
 - ⑥生成 AI 時代の「問いを育てる力」
 - ⑦問いを育てる訓練
 - ⑧生成 AI の記録と記憶
 - ⑨生成 AI の課題と対応
- (2) 令和8年度揖斐郡教育会夏季研修のまとめ
- (3) 令和7年度夏季研修(生成 AI 活用研修・初級編) 「生成 AI の課題と教育利用について」の講演の概要
- (4) 初等中等教育段階における生成 AI 利活用に関するガイドライン <文部科学省>
- (5) 学校における生成 AI の利活用について <岐阜県教育委員会>
- (6) 「各教科での生成 AI の活用の具体例について」(揖斐郡教育研修センター提案)

揖斐郡教育会適応指導教室

揖斐郡教育研修センター



ほほえみ教室



月、火、木、金曜日(祝祭日を除く) 9:00～17:00 ほほえみ専用ダイヤル 090-3220-1268

10月以降の 心の相談会・教育相談研修会

心の相談会			
①	10月14日(水)	14:00～16:30	郡センター相談室
②	11月25日(水)	14:00～17:30	大野町民総合センター第一会議室 (研修後、心の相談会)
③	1月13日(水)	14:00～16:30	郡センター相談室
④	2月17日(水)	14:00～16:30	郡センター相談室
教育相談研修会			
⑤	11月25日(水)	14:00～15:20	大野町民総合センター 第一会議室



令和8年度 揖斐郡学校保健研修総会

- 1 日時 令和8年7月29日(水) 13:00～15:00
- 2 場所 谷汲サンサンホール 多目的ホール
- 3 参加者 郡学校保健会理事、郡内各校の校長先生、保健主事、養護教諭、栄養教諭、体育主任、PTA 会長
PTA 学校保健担当様、郡三師会で参加していただける先生方等 約120名

4 日程

12:30～12:50 13:00

13:45 13:55

14:55 15:00

受付	【第1部】 総会&表彰&講評&報告等	休憩	【第2部】講演 「こどものアレルギーの最近の話題 ～アナフィラキシーを中心に～」	お礼 閉会の言葉
----	-----------------------	----	--	-------------

5 内容 【第一部 総会】

- ・郡学校保健会会長挨拶 (今村 寧 様)
- ・郡教育会会長挨拶 (高橋 利行 様)
- ・総会・表彰式 郡学校保健会功労者表彰 学校環境衛生調査表彰
- ・歯の健康児童事業講評 郡歯科医師会 会長 保坂 松治 様
- ・郡学校環境衛生活動講評 郡薬剤師会 会長 金森 豊 様

(13:45～13:55 休憩・講演準備)

【第二部 講演】

「こどものアレルギーの最近の話題～アナフィラキシーを中心に～」

講師 岐阜大学附属病院 小児科臨床教授 同アレルギーセンター センター長 川本 典生 先生



郡学校保健研修総会



郡学校保健会 会長挨拶
(今村 寧 様)



郡学校保健会功労賞表彰
(高橋 治樹 様)



郡学校環境衛生優秀校表彰
(中小・西小・宮地小・揖斐川中)



川本先生の講演

講演の感想・学んだこと

- アレルギーも感染症も養護教諭！人だけではなく、学校組織として取り組みたいといけなくて、毎年の職員研修等で最新の情報を担任の先生方にも共有し、子どもの対応にあたりたいと思いました。また給食は、もちろん、宿泊研修のメニューなども保護者を含めて、複数で確認する必要があると思いました。
- 知識(保健情報)のバージョンアップができ、最近のアレルギー事情を詳しく知ることができました。学校に生かしていきたいと思いました。アレルギーの対応もどんどん新しくなっており、日々状況が変わる中で、正しい知識をもとに行動することが大切だと感じました。
- 本校にもエピペンを持っている生徒がいます。他にも、様々な体調の生徒がいるため、この講演で学んだことや4月に行った訓練を、これからの学校生活で活かせるようにしたいです。また、子供の命を救うには時間との勝負のため迅速かつ冷静に対応していきたいと思いました。
- 命をお預かりしていることを忘れずに、研修などをしっかり行っていきたいです。そのために今回知った新しい対応を確実に学校に広めていくようにしたいです。
- 今年度、アレルギーのシミュレーションと実技の職員研修を行ないましたが、自分はもちろん職員が常に危機意識をもって過ごすように伝えていきたいと思いました。

